



2020

4年後のことを言うと、鬼も笑えない。

FUKUYAMA

Eiji Murakami presents

総務省統計局では、毎年「敬老の日」を迎えるに当たって、統計からみた日本の高齢者のすがたを取りまとめています。これによれば、女性の30・6%が65歳以上になっていることが明らかとなり、女性のおおむね3人に一人は高齢者という状況です。日本の65歳以上人口（高齢者人口）は3514万人となり、すでに4人に一人以上の27・7%が高齢者という状況に至っています。日本の高齢化は、急速に進行してきており、また、平均寿命も延びてきていることから「高齢者がより高齢化する時代」へと突入してきています。国連の定義では、高齢化率は総人口に占める65歳以上の割合を定めていますが、7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」と定められています。世界各国で、高齢化社会と言われる高齢化率7%から高齢社会と言われる14%になるまでに、どれくらいの年数がかかっているのかを比較してみると、日本24年、ドイツ40年、イギリス46年、ア

今回のテーマ、ざっくり言うと…

- ・日本の高齢化は「高齢者がより高齢化する時代」へと突入してきている。
- ・そのスピードは世界の主要国と比べてもトップランナーの状況にある。
- ・厳しい状況下では『嫌われるけど正しい判断、当たり前判断』ができる人が必要。

アメリカ72年、スウェーデン85年、フランス115年であり、日本の高齢化が急速に進んでおり、世界の主要国の中で高齢化のトップランナーであるという状況にあります。

日本では「人口減少・少子高齢化時代」が到来していますが、高齢化は2042年に3935万人ピークを迎え、以降は減少し、少子化も加速しています。将来の日本の人口が、引き続き著しい高齢化が進み、子どもの数が減り、働き手である15歳〜64歳の生産年齢人口が減る状況下では、高齢者増に伴う介護保険、年金や医療費の増加により国や地方自治体の歳出が増え、一方で所得税を納める生産年齢人口が減少することにより、税収（歳入）が減る、という厳しい財政状況、厳しい未来が待ち構えていることが容易に想像できます。

また、「高齢者がより高齢化する時代」で深刻な問題は、65歳から74歳という60歳定年後も働き手として期待される高齢者が減少し、75歳以上の後期高齢者が増える、という高齢者の高齢化が進むことです。男女平均寿命差（男性80・75歳、女性86・99歳、その差は6・24歳）2017年3月1日厚生労働省公表・第22回生命表）や核家族化の現状より「一人暮らしのおおあちゃんが増える」などの深刻な未来が見えてきます。

実際、2015年国勢調査によれば「単身世帯数の最も多い世代」は、男性では25〜29歳、女性では80〜84歳となっています。老後の貯えを夫の介護費用に充てるという世帯も増え、夫が残した家や土地を担保にしてお金を借りるリバース・モーゲージも資産価値の低下や空き家の増加に伴い通用しなくなっていくことが想定されます。

さて、高齢者の増加に伴い、年金給付も厳しくなっていくことが想定されます。現在、年金の1ヶ月当たりの給付額は男性16万5千円に対して、女性は10万2千円程度となっており、2015年度の社会保障給付費は120兆円、2025年は150兆円と右肩上がりで増える一方、支える若者は人数激減だけではなく、非正規雇用及び就職できず親の支援も見受けられます。社会保障給付金は10年間で30兆円の増加、すなわち年間3兆円も増加する訳ですが、行財政改革による捻出は可能なのでしょうか？これは正直、厳しい数字だと考えます。

北海道夕張市は平成19年に財政破綻し、税金・水道代が上がり、社会保障サービスは縮小され、公共施設が次々と閉鎖、公務員も大幅に解雇され、給与もカットという状況が現在も続いています。地方債の発行により多くの借金を返済している市町村がすでに日本で多いにも関わらず、日本の財政は破

綻しないという楽観論が根強くあると思います。私たちが、それなりの社会保障を求め、「税金や保険料は低負担」とするのであれば「低福祉」で我慢せざるを得ず、社会保障サービス縮小・増税負担・経済成長・行財政改革すべて同時に行わなければならないのが日本の現状です。

都市部では、孤独死も増大する中で、十分な年金が得られない高齢者など収入の少ない人たちの生活保護で見守るとなると国家財政は破綻します。間違いなく日本では近い将来、多くの法改正など社会システムを大きく変革しなければならぬ、待ったなしの状況が起きると考えられます。こうした状況を鑑みると「嫌われるけど正しい判断、当たり前判断」ができる人材が求められます。明日、何が起きてもおかしくない時代に備えて今日をどう生きるのか？私たちは常に将来に向けた課題が問われているのです。

村上栄二 HP

「村上栄二しんぶん増刊号」

<https://murakamiejijicom.jimdo.com>



こちらのQRコードからもアクセスいただけます。